

## SRID キャリア開発塾講師陣プロフィール



氏名：藤村建夫

自己紹介：福岡市出身、東京都在住。海外生活は英国2年を皮切りにミャンマー3年、ニューヨーク10年、上海3年、合計18年に亘る。自称、半分日本人、半分外国人の国際人。海外で働くこと、国際機関で働くこと、子供を立派な国際人に育てることという3つの夢をもっていましたが、運よくすべてを実現することが出来た。専門分野の経験は「開発経済学」、「中小工業開発」、「南南協力」、「プロジェクトの運営管理」、「PCM手法」、「援助人材の養成」等である。これからは頭を退職させないように、日々新たに、特にミャンマーの開発と若手援助人材の養成に貢献したいと思って活動している。大学を卒業するまでは、とても今のような人生を過ごすことが出来るとは夢にも思わなかったので、自分の経験を多少なりとも若い人たちにお伝えしてお役に立てたらと願っている。

学歴：長崎大学経済学部卒業（1966年）、サセックス大学開発経済学修士（1972年）

### 主要職歴

1966年 バターフィールド & スワイヤ（ジャパン）リミテッド社  
1969年 （社）海外コンサルティング企業協会  
1975年～国際協力事業団（2003年に国際協力機構と名称変更）に入団以来、鉱工業  
1997年 開発協力部、企画部、国際協力総合研修所、ミャンマー事務所長を歴任。  
（財）国際開発高等教育機構へ出向の後、企画部次長を経て UNDP に転職。  
1997年 国連開発計画(UNDP)、南南協力部、南南協力シニアアドバイザー  
2006年～UNDP南南協力部スペシャル・アドバイザー（2006～2008年）  
現在 上海環境能源交易所、上級顧問（2009～2015年まで）  
ミャンマー・日本エコツーリズム(MJET)会長(2007～)  
東京大学、新領域創成科学国際協力学、非常勤講師（2007～2012年）  
国際協力機構、客員専門員（2008年2011年）  
日本ミャンマー友好協会監事(2012～)兼ミャンマー経済・投資センター参与  
国際開発研究者協会(SRID)会長（2015～）

### 著作

1. 「海外援助機関における開発協力事業の質的管理」、2001年、『PCM手法の理論と活用』、（財）国際開発高等教育機構
2. 共著、『開発学』、1996年、アルク社、
3. 翻訳共著、『援助は役立っているか』、1993年、国際協力出版会、

### 主要プロジェクト

1. タンザニア、キリマンジャロ工業開発センター（KIDC）
2. フィリピン窯業研究開発センター（PCRDC）
3. Africa/Asia Joint Research: Interspecific Hybridization between African and Asia Rice Species（ネリカ米研究開発プロジェクト）